

使用ツール

ロイロノート

活用シーン

○個人追究の場面

- ・土地に垂直な2本の通路を通す図を自分で考えてつくる。
- ・いろいろな図をつくって考え、多様な考え方を見出す。

○小集団交流の場

- ・作った図を利用して、どのように考えて方程式をつくったかを説明する。
- ・さらに新しい考え方ができないか、図を操作して見出す。

子どもの姿・授業の様子、成果等

- 学習が苦手な生徒も条件に合う図をつくることのできた。
- 図を自分でつくる活動を通して、主体的に取り組むことができたように感じる。
- 操作することによって、多様な考え方に触れたり、より簡単な方法を見つけようとしたりする姿が見られた。
- 相手に伝えるために、色を変えたり描きこんだりして、表現しようと工夫していた。

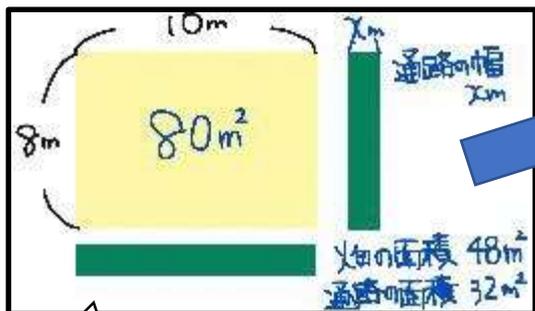
小集団交流では、自分の考え方の図を使いながら、話し合いを進めた。



図を動かして、仲間の考えを真似してみたり、新しい考えを見出したりする姿があった。

【生徒の振り返り】

- ・道の幅を計算しやすいように動かして考えることができた。班の子のやり方をみて納得することができた。
- ・重なっていると後ろから引くという考えが良いなと思いました。
- ・道の本数を増やして考えてみたい。



導入時、条件を一斉で確認。

個人追究では、ロイロノートで図をつくり、立式。図と式が繋がることを意識。

